

(2) 授業の質的改善を図るための手立て

本研究委員会では、授業を通して身に付けさせたい力を明確にした上で、生徒の学習の様子や学習到達度を把握し、その実態を基に自分の授業づくりを見直せば、授業の質的改善を図る糸口を見いだすことができると思われました。

生徒の学習の様子や学習到達度は、授業中の観察、ワークシートの記述内容の見取り、テストの結果、授業の録画など、様々な方法で把握することができますが、1つの方法だけに頼るのではなく、複数の方法を組み合わせ、様々な角度から生徒の実態を知ろうとすることが大切です。また、1時間の授業だけで見るとはならず、複数回の授業における変容を見ることも重要です。

生徒の実態から資質・能力における課題が見えてきたら、改善策を探るために、外国語教育における学習指導過程に沿って、生徒の様子と自分の指導の実態を振り返ります。その振り返りを基に、「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって授業改善の手立てを探ります。手立ての実践後は、生徒の変容から手立ての効果を振り返ります。この手順を繰り返すことで、授業の質的改善が図られ、生徒の資質・能力をより効果的に育てることができると考えます(図1)。このような取組を学期に1回など、定期的かつ継続的に行っていくことが大切です。

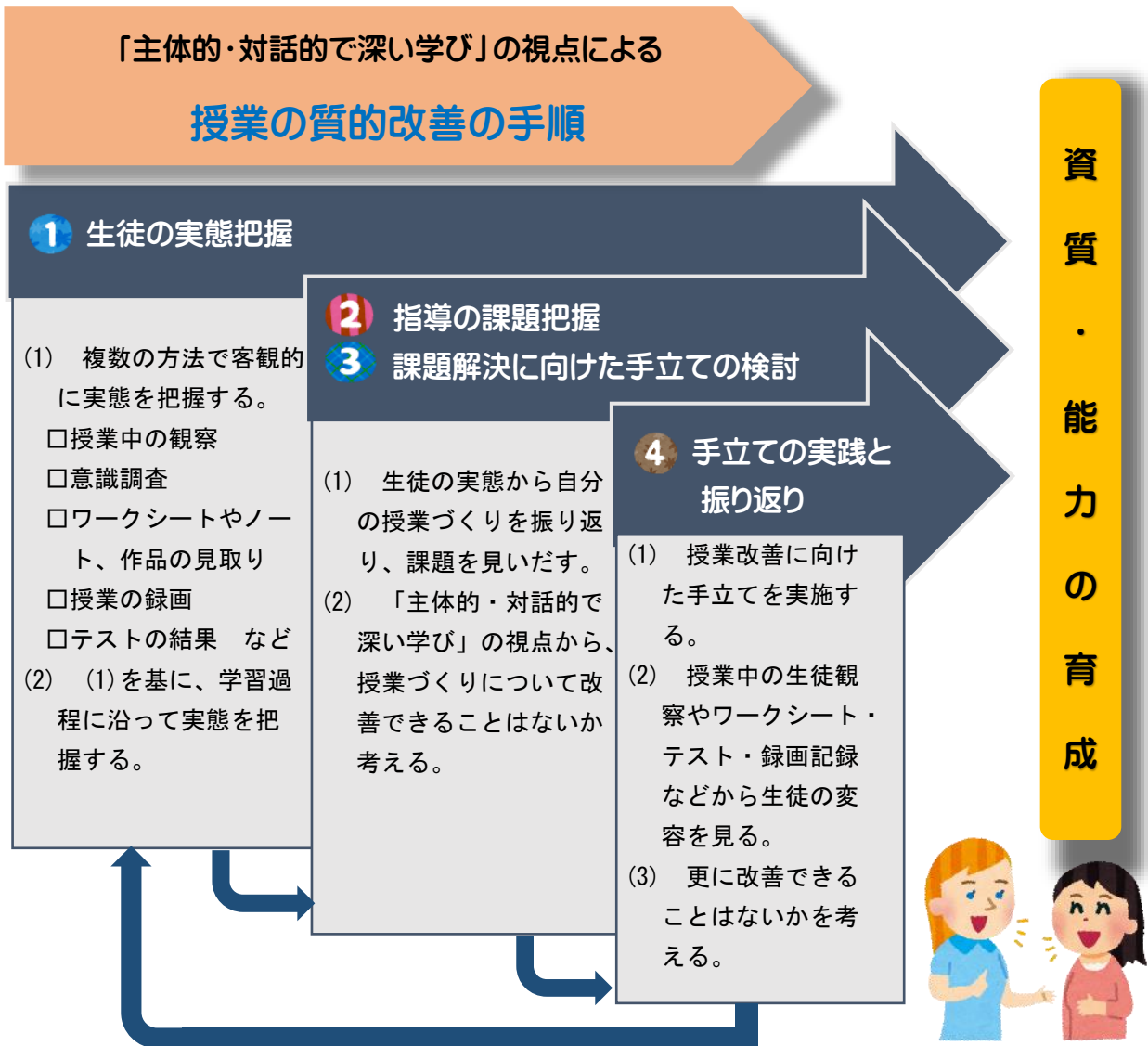


図1 授業の質的改善の手順

本研究委員会では、授業の質的改善の取組をサポートするために、授業振り返り [スタート] シート (図 2) 及び授業振り返りシート (次頁図 3) を作成しました。授業振り返りシートは、視点をもって授業を振り返ることができるよう、外国語科の学習指導過程に沿って目指したい生徒の姿と教師の指導を整理したものです (授業振り返り [スタート] シートは、授業の質的改善に取り組む最初の手掛かりになるものとして作成したものです。授業振り返り [スタート] シートを使わずに、授業振り返りシートから始めることができます)。

課題解決の手立てについては、生徒の実態や学習環境、学習内容、また、教師の持ち味など、様々なことを考慮する必要があります。うまく思い付かない場合は、一例を示した手立てシート (次頁図 4) を参考にするなどして、よりよい手立てを考えてみましょう。自分 1 人で考えるだけでなく、これらのシートを活用して英語科の同僚や、他教科等の同僚と意見交換をすることも、有効な授業改善の手立てを生み出すきっかけになると考えます。



授業振り返り[スタート]シート

生徒の実態から
START!
授業の質的改善!

「英語でコミュニケーションできるようになりたい!」

そんな生徒の思いを実現するために、**ふだんの授業の不断の見直しと改善**に取り組んでいきませんか? 生徒の実態把握から授業づくりを見直してみましょう!

授業がなかなかうまくいかない、困ったな...

どうして成績が伸びないのだろう? 学習活動には積極的なのに、スピーキングもライティングも正確さが今一つ...

生徒たち、英語の勉強についてどう思っているのかな? 反応がないし、やる気を感じないの。

うちも同じだよ。何をコミュニケーションの場にするには、何をすればいいのかな...?

生徒の様子をチェック

クラスの多くの生徒ができています。→ (○)
クラスの半分程度の生徒ができています。→ (△)
クラスのほとんどの生徒ができていない。→ (×)

課題がありそうな項目について「授業振り返りシート」で もっと詳しく見てみましょう。

- ◆学習のスタートに

 - () 学習を通して、英語で何ができるようになるのか理解している。
 - () 学習を通して、英語で何ができるようになりたいのか目標をもっている。
 - () 学習課題に興味・関心をもっている。

▶ 学習指導過程 1
へ GO!
- ◆学習ゴールの達成に向けて

 - () 間違いを恐れず、積極的に英語を使っている。
 - () 語彙・表現や文法をコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。
 - () 自分の学習到達状況を振り返り、見いだした成果と課題を基に改善に取り組んでいる。
 - () 4技能5領域をバランスよく身に付けている。

▶ 学習指導過程 2・3
へ GO!
- ◆実際の言語活動で

 - () 知識や技能を駆使し、コミュニケーションの場面や相手に応じて、課題を解決しようとしている。
 - () 言語活動の途中や最後に、自分の発語や作品を振り返り、自分で調べたり、再考・修正したりして、よりよいものにしようとしている。
 - () ゴールの達成度について自覚している。

▶ 学習指導過程 4
へ GO!
- ◆単元の学習の終わりに

 - () 学習した内容を人に説明できる。
 - () 次の学習への見通しや意欲をもっている。

▶ 学習指導過程 5
へ GO!

Click すると
A4 サイズに
拡大します。

図 2 授業振り返り [スタート] シート

生徒の英語から START! 授業の質的改善!

単元における学習過程に沿って見てみましょう!
授業振り返りシート

20 年 月 日実施

1 英語のコミュニケーションに必要な「資質・能力」を育てる学習過程において、育成につながる手立てを取っているかどうか振り返ってみよう。
2 生徒の「資質・能力」を育てるために、および授業づくりを自覚し、授業改善の手立てを考えてみよう。

3 改善につながる手立てを考えてみよう。
[授業をよりよい学びの場にするために、私は...]
[手立てシート]

授業の質的改善の手帳

1 生徒の実態を学習過程に沿って見てみよう。[私の生徒は〜]
クラス全体の様子を見てみる。(1~3)
クラス中層の様子を見てみる。(1~3)
クラス後進の様子を見てみる。(1~3)

2 自分の授業づくりを振り返りよう。[生徒の「資質・能力」を育てるために、私は〜]
得意なところ。(1~3)
課題点。(1~3)
まだできていないこと。(1~3)

3 改善につながる手立てを考えてみよう。
[授業をよりよい学びの場にするために、私は...]
[手立てシート]

授業の振り返りをイメージしながら振り返りシート

授業の振り返りシート

学習指導過程 1 単元ゴールの把握

学習指導過程 2 単元ゴールの達成に向けた学習の見直し

学習指導過程 3 単元ゴールの達成に向けた学習の練習

学習指導過程 4 単元ゴールの達成のための言語活動

学習指導過程 5 学習のまとめと振り返り

Click すると A3 サイズに拡大します。

単元ゴールの把握

単元ゴールの達成に向けた学習の見直し

単元ゴールの達成に向けた学習の練習

単元ゴールの達成のための言語活動

学習のまとめと振り返り

図 3 授業振り返りシート

手立てシート

学習指導過程 1 単元ゴールの把握

学習指導過程 2 単元ゴールの達成に向けた学習の見直し

学習指導過程 3 単元ゴールの達成に向けた学習の練習・練習

学習指導過程 4 単元ゴールの達成のための言語活動

学習指導過程 5 学習のまとめと振り返り

Click すると A3 サイズに拡大します。

単元ゴールの把握

単元ゴールの達成に向けた学習の見直し

単元ゴールの達成に向けた学習の練習

単元ゴールの達成のための言語活動

学習のまとめと振り返り

図 4 手立てシート

「授業振り返り【スタート】シート」「授業振り返りシート」及び「手立てシート」

を使った、授業の振り返りと見直しの進め方 例

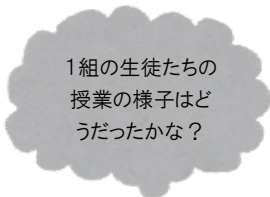


1 生徒の実態を把握しましょう。

1 自分が指導している学級の生徒の様子を思い浮かべ、「授業振り返り【スタート】シート」（2頁 図2）の項目について、どの程度生徒ができているのかイメージしながら気軽にチェックしてみましょう。

【評価の目安】

- クラスの多くの生徒ができている。 → (○)
- クラスの半分程度の生徒ができている。 → (△)
- クラスのほとんどの生徒ができていない。 → (×)



学習のスタートから
気になるな...

生徒の様子をチェック

クラスの多くの生徒ができている。 → (○)
 クラスの半分程度の生徒ができている。 → (△)
 クラスのほとんどの生徒ができていない。 → (×)

課題がありそうな項目について「授業振り返りシート」で確認してみましょう

- ◆学習のスタートに
 - (△) 学習を通して、英語で何ができるようになるのか理解している。 → 学習指導過程 1 へGO!
 - (×) 学習を通して、英語で何ができるようになりたいのか目標を持っている。
 - (△) 学習課題に興味・関心を持っている。
- ◆学習ゴールの達成に向けて
 - (○) 間違いを恐れず、積極的に英語を使っている。 → 学習指導過程 2, 3 へGO!
 - (×) 語彙・表現や文法をコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。
 - (×) 自分の学習到達状況を振り返り、見いだした成果と課題を基に改善に取り組んでいる。
 - (×) 4技能5領域をバランスよく身に付けている。
- ◆実際の言語活動で
 - (△) 知識や技能を駆使し、コミュニケーションの場面や相手に応じて、課題を解決しようとしている。 → 学習指導過程 4 へGO!
 - (×) 言語活動の途中や最後に、自分の発話や作品を振り返り、自分で調べたり、再考・修正したりして、よりよいものにしようとしている。
 - (×) ゴールの達成度について自覚している。
- ◆単元の学習の終わりに
 - (△) 学習した内容を人に説明できる。 → 学習指導過程 5 へGO!
 - (△) 次の学習への見通しや意欲を持っている。

2 ×や△が付き、課題がありそうだと思う学習過程について、「授業振り返りシート」（前頁図3）の①で、もっと詳しく生徒の実態を見てみましょう。

学習指導過程 1

単元ゴールの把握

- (△) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになるのか理解している。
- (△) 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動をするのか見通しを持っている。
- (△) 現在何ができて、何ができていないか自覚している。
 例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」
 「原稿を見ないで言うのは難しそう」「英文の語順がよく分からない」
 「40秒英語でやり取りをするなんて何を話していいかの分からない」 など
- (×) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになりたいのか目標を持っている。
- (×) 単元のスタートに単元ゴールの学習課題について、具体的に理解している。
 例) コミュニケーションの設定場面 コミュニケーションの相手
 英語で何をするか など
- (△) 単元ゴールの学習課題に興味・関心を持っている。

3 「×」又は「△」と評価した項目の中から「早速、改善を図りたい！」と思われる項目を決めましょう。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

4 ①で「×」または「△」と評価した項目に関わって、その右側の②のチェックリストの項目を見ながら、自分の指導について「○」「△」「×」で評価してみましょう。

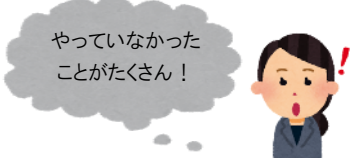
① 日頃の生徒の様子をイメージしながら気軽にチェック!

テストの結果 授業の録画記録

ワークシート 作品 授業中の発話

- (△) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになるのか理解している。
- (△) 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動をするのか見通しをもっている。
- (△) 現在何ができて、何ができていないか自覚している。
例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」「原稿を見ないで言うのは難しそう」「英文の語順がよく分からない」「40秒英語でやり取りをするなんて何を話していいかわからない」など
- (×) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになりたいのか目標をもっている。
- (×) 単元のスタートに単元ゴールの学習課題について、具体的に理解している。
例) コミュニケーションの設定場面 コミュニケーションの相手 英語で何をやるのか など
- (△) 単元ゴールの学習課題に興味・関心をもっている。

- (△) ア 単元ゴールにおけるコミュニケーションの目的や場面、状況等を生徒に明確に示し、学習の見通しを持たせられるよう、具体的に学習指導計画を立てている。
- (△) イ 単元のスタートに、単元ゴールの活動の目的や場面等について具体的に生徒に示している。
例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本で生活などについて紹介する」「日本を初めて訪れ、〇〇校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」「ロボットと人間の共存について書かれた記事などを読み、自分の考えをまとめて発表する」など
- (×) ウ 単元ゴールの達成に向けた学習を通して、生徒にどのような力を付けたいのか具体的な目標をもっている。また、それを生徒に示している。
例) 「1分程度のスピーチを聞いて理解する力」「〇〇についてのメールを読んで理解する力」「〇〇についてALTとやり取りする力」「メモを見ながら発表する力」「〇〇についてB文程度のエッセイを書く力」など
- (△) エ 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習を行うか生徒に示している。
- (×) オ 生徒が現在の自分の力を把握し、単元ゴールの達成に向けて、どのような学習が必要か考えることができるような機会を設けている。
- (×) カ 単元ゴールでどのようなパフォーマンスを行いたいのか、生徒が目標を立てる機会を設けている。
- (△) キ 生徒が単元ゴールに興味をもち、達成する必然性を見いだしたり、取り組みたいと感じることができるよう、生徒の実態に応じて内容や提示の仕方などを工夫している。



3 改善につながる手立てを考えてみましょう。

5 ③の枠の中に、改善に向けての手立てを考えて書いてみましょう。その際に、手立てがうまく思い付かない場合は、「手立てシート」(3頁図4)も参考にしてみましょう。

③ 改善につながる手立てを考えてみましょう。
「授業をよりよい学びの場にするために、私は…」
アイデアに話まったら…「授業の質的改善の手立てシート」へGO!

まずは、こんな手立てをとってみようかな…

「授業の質的改善の手立てシート」
どんな手立てが考えられるのかちょっと書いてみよう…

ア→主-D
イ→主-D・E
ウ→主-D・H・I・J
エ→主-H・I・J
オ→主-K、対-B、
深-B・C
カ→主-I・J、深-C
キ→主-C・E・F・G・
H・I・J・K、
対-A、深-A

手立てシート

学習指導過程 1 学習ゴールの把握	学習指導過程 2 学習ゴールの達成に向けた見通し
A 生徒が英語に触れる機会を十分に確保し、英語で互いの考えや気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションの機会を充実させるために、授業は英語で行い、授業が実際のコミュニケーションの場となるようにする。	
D 単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか、また、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、進向き設計で具体的な学習指導計画を立てる(マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する)。	L 習得した語彙・表現や文法などの、実際のコミュニケーションにおける活用がイメージできるように、Talkやビジュアル教材などでモデルを提示する。
E コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等を分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。	M 単元ゴールの達成に必要な英語表現を、自問自答で捉え、意味のある文脈でのコミュニケーションにおいて、繰り返し聞いたり読んだりしながら行うことができるようにする。 例) ・Teacher Talkでの生徒とのやり取り ・Word Mapping ・Word Game (クロスワードパズル、関連連想ゲーム、クイズなど)
F コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。	
G 学習内容と自分自身を関連付けて捉えさせ、ビジュアル	

4 手立てを実践し、効果について振り返りましょう。

6 手立てを考えたら、単元の授業の中で取り組んでみましょう。そして、その手立てにより、その単元で身に付けさせたい力が習得されているかを、①の項目に立ち返りながら確認してみましょう。

Case 1 授業に対して受け身になっている生徒が多いことが悩みの A 先生



- ・全体的に学習意欲が低くて、授業に集中できない生徒も多い。
- ・問い掛けをしても、なかなか反応が返ってこないし、応答するのは同じ生徒ばかりだ。
- ・ペア学習をさせても、音読練習をさせても、適当に活動を終わらせようとする生徒がたくさんいて、対応に苦労している。

1 生徒の実態を把握しましょう。

生徒の様子をチェック

クラスの多くの生徒ができて、→ (○)
 クラスの半分程度の生徒ができて、→ (△)
 クラスのほとんどの生徒ができていない→ (×)

◆学習のスタートに
 () 学習を通して、英語で何ができるようになるのが理解している。
 () 学習を通して、英語で何ができるようになりたいの目標を持っている。
 () 学習課題に興味・関心を持っている。

◆学習目標の達成に向けて
 () 間違いを恐れず、
 () 語彙・表現や
 () 自分の

学習のスタートからやれることがありそう!

課題がありつつも項目について「授業振りのシート」で

学習指導過程 1
へGO!

学習指導過程 2・3
へGO!

単元の終わりの自分の姿をイメージして、目標をもって学習している子は、ほとんどいない気がする。英語の学習に関心をもっているようにも見えない…。



学習指導過程 1

単元目標の把握

コミュニケーションの状況等を理解する

- (×) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになるのが理解している。
- (△) 単元目標の達成に向けて、どのような学習活動をするのか見通しをもっている。
- (△) 現在何ができて、何ができていないか自覚している。
 例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」「原稿を見ないで言うのは難しそう」「英文の語順がよく分からない」「40秒英語でやり取りをするなんて何を話していいの分からない」 など
- (×) 単元の学習を通して、英語で何ができるようになりたいの目標をもっている。
- (×) 単元のスタートに単元目標の学習課題について、具体的に理解している。
 例) コミュニケーションの設定場面 コミュニケーションの相手 英語で何をするのか など
- (×) 単元目標の学習課題に興味・関心をもっている。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

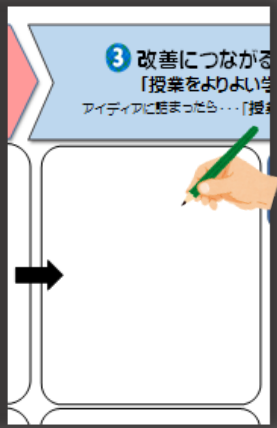
1時間の授業で何をさせるかということばかり考えていて、単元全体でどのような力を付けるかということを意識していなかった！だから、生徒にも学習の見通しをもたせられなかったし、学習の必然性を感じさせることができていなかったのか…。

生徒が学習に関心をもつようにするための工夫もできていないな…。



- (×) ア 単元目標におけるコミュニケーションの目的や場面、状況等を生徒に明確に示し、学習の見通しを持たせられるよう、具体的に学習指導計画を立てている。
- (×) イ 単元のスタートに、単元目標の活動の目的や場面等について具体的に生徒に示している。
 例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本での生活などについて紹介する」「日本を初めて訪れ、〇〇校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」「ロボットと人間の共存について書かれた記事などを読み、自分の考えをまとめて発表する」 など
- (×) ウ 単元目標の達成に向けた学習を通して、生徒にどのような力を付けたいのか具体的な目標をもっている。また、それを生徒に示している。
 例) 「1分程度のスピーチを聞いて理解する力」「〇〇についてのメールを読んで理解する力」「〇〇についてALTとやり取りする力」「メモを見ながら発表する力」「〇〇について8文程度のエッセイを書く力」 など
- (△) エ 単元目標の達成に向けて、どのような学習を行うか生徒に示している。
- (×) オ 生徒が現在の自分の力を把握し、単元目標の達成に向けて、どのような学習が必要か考えることができるような機会を設けている。
- (×) カ 単元目標でどのようなパフォーマンスを行いたいのか、生徒が目標を立てる機会を設けている。
- (△) キ 生徒が単元目標に興味をもち、達成する必然性を見いだしたり、取り組みたいと感じたりすることができるよう、生徒の実態に応じて内容や提示の仕方などを工夫している。

3 改善につながる手立てを考えてみましょう。



なかなかアイデアが浮かばないな…。
「手立てシート」を参考にしてみよう。



単元	単元目標	学習活動	評価
第1単元	英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しみ、間違えることを恐れず学習をすることができる雰囲気づくりを行う。	英語を使う必然性のある活動の設定（ゲーム性のある活動、課題解決型の活動、クリエイティブな活動など）、具体的な称賛や激励、支持的風土づくり、楽しく学ぶ雰囲気づくり、学習方法の提示、修正の仕方やタイミングについての配慮など	英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しみ、間違えることを恐れず学習をすることができる雰囲気づくりを行う。
第2単元	コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等をに分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。	コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等をに分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。	コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等をに分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。
第3単元	実演や作品の紹介などを行いながら、単元ゴールの姿を可視化して示し、個々の生徒に単元を通した学習到達目標を立てる場を設定する。	実演や作品の紹介などを行いながら、単元ゴールの姿を可視化して示し、個々の生徒に単元を通した学習到達目標を立てる場を設定する。	実演や作品の紹介などを行いながら、単元ゴールの姿を可視化して示し、個々の生徒に単元を通した学習到達目標を立てる場を設定する。
第4単元	生徒の実態に合わせ、学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、自分で考えさせたりする場を設定する。	生徒の実態に合わせ、学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、自分で考えさせたりする場を設定する。	生徒の実態に合わせ、学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、自分で考えさせたりする場を設定する。
第5単元	単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか考え、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を立てる（マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する）。	単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか考え、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を立てる（マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する）。	単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか考え、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を立てる（マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する）。
第6単元	コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。	コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。	コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。

黄枠：主体的な学びの視点からの手立て

B 英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しみ、間違えることを恐れず学習をすることができる雰囲気づくりを行う。
例) 英語を使う必然性のある活動の設定（ゲーム性のある活動、課題解決型の活動、クリエイティブな活動など）、具体的な称賛や激励、支持的風土づくり、楽しく学ぶ雰囲気づくり、学習方法の提示、修正の仕方やタイミングについての配慮など

D 単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか考え、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を立てる（マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する）。

E コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等をに分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。

F コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。

J 実演や作品の紹介などを行いながら、単元ゴールの姿を可視化して示し、個々の生徒に単元を通した学習到達目標を立てる場を設定する。

K 生徒の実態に合わせ、学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、自分で考えさせたりする場を設定する。

まずは、英語を使ったコミュニケーションを行う活動をゴールに設定して、それに必要な力を付ける言語活動を考えてみよう。どのような力を付けたいのか、生徒にも考えさせるようにしたら、やる気が出るかしら。どの活動も、そのゴールの達成につながるものだと生徒が実感すれば取り組み方が変わるかも。それから、自分の伸びを実感できるような手立てを取ることも必要ね。
もっとリアルな場面設定で言語活動を行うようにしたら、生徒も意欲的になってくるかな…？

ピンク枠：対話的な学びの視点からの手立て

A 設定されたコミュニケーションの場面について、ペアやグループで自分の体験を紹介し合ったり、知っていることについて情報を交換したりしながら、題材に係る知識を充実させることができる場を設定する。

B 学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法について、ペアで意見を交換し、参考にし合ったり、話し合いを通してよりよい方法を見付け出したりすることができる場を設定する。

緑枠：深い学びの視点からの手立て

A 生徒が自身の体験や既知の情報と関連付けながら深く考えることができるようなオーセンティックな教材の準備、学習課題の設定、発問などを行う。

C CAN-DOリストなど具体的な視点を持つことができるリストを活用し、現在身に付けている知識や技能に加え、何が分かり、何ができるようになりたいのか考え、学習の見通しをもつことができるようにする。

Case 2 学習内容がなかなか定着しないことが悩みの B 先生



- ・生徒は、一生懸命授業に取り組んでいるし、ペアやグループでの活動にも積極的で、楽しんでいるように見える。
- ・なかなか教えたことが定着しなくて、テストで正確に英文を書くことができない生徒が多い。
- ・スピーチを書かせても、モデルの文のまねで終わってしまって、どの生徒も同じようなことを書いている。もっと、いろいろ工夫してほしい。

1 生徒の実態を把握しましょう。

◆学習ゴールの達成に向けて

- () 間違いを恐れず、積極的に英語を使っている。
- () 語彙・表現や文法をコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。
- () 自分の学習到達状況を振り返り、見いだした成果と課題を基に改善に取り組んでいる。
- () 4技能5領域をバランスよく身に付けている。

→ 学習指導過程 2・3
へGO!

◆実際の言語活動で

- () 知識や技能を駆使し、コミュニケーションの場面や相手に応じて、課題を解決しようとしている。
- () 言語活動の途中や最後に、自分の発話や作品を振り返り、自分で調べたり、再考・修正したりして、よりよいものに行ようとしている。
- () ゴールの達成度について自覚している。

→ 学習指導過程 4
へGO!

言語活動で、もっと工夫ができそう!



学習指導過程 2

単元ゴールの達成に向けた学習の見通し

学習指導過程 3

単元ゴール達成に向けた理解や練習

- (△) 学習活動に見通しをもち、粘り強く取り組んでいる。
- (△) 間違いを恐れず、積極的に英語を使って学習課題の解決に取り組んでいる。
- (×) 語彙・表現や文法をコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。
- (△) Teacher Talkや教材、また、クラスメートの発話や作品など様々なものから語彙・表現や文法を学んだり、学習内容に関する情報を得たりしている。
- (△) 学習した内容や経験、また、新たに得られた知識・技能を積極的に活用しながら、コミュニケーションの相手や状況に応じて自分の意見や考えを発信している。
- (○) ペアやグループで協力して学習活動に取り組み、学習課題を解決している。
- (×) 辞書やインターネット等を活用し、疑問点の解決やより良い作品づくりに取り組んでいる。
- (×) 自分の学習到達状況を振り返り、見いだした成果と課題を基に改善に取り組んでいる。
- (×) 4技能5領域においてコミュニケーションを図ることができる力をバランスよく身に付けている。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

- (○) ア 学習活動の目的や内容、ゴールの姿を分かりやすく示している。
- (△) イ 安心して学習に取り組むことができる環境づくりをしている。
- (○) ウ 学習内容に興味・関心をもたせるための工夫をしている。
- (×) エ 語彙・表現や文法など基礎的・基本的な知識を、コミュニケーションの使用場面と関連付けて習得することができる工夫をしている。
- (△) オ 生徒が様々な場面で質の良いインプットを得ることができるよう、Teacher Talk教材の語彙レベルや量、内容、提示の仕方などは、生徒の実態に応じたものにした思考を促したり、気付きを起こさせる発問を行ったりしている。
- (△) カ 学習した内容を、異なる場面設定の中で活用することを通して、繰り返し学ぶことができるような言語活動を設けている。
- (△) キ 生徒の実態（語彙レベル、学習スタイル、学習環境、興味・関心など）に応じた様々な言語活動を通して、語彙・表現や文法などの知識や技能の習得が効果的に行われるようにしている。
- (△) ク コミュニケーションの必然性がある学習課題を設定し、相手や目的、状況を明確に示している。
- (×) ケ 生徒が自分で調べたり、人と協力して学習したりすることを通して、学びを広げ高めるとができる場を設けたり、環境を整えたりしている。
- (×) コ 生徒が自分の学習到達状況や姿容を具体的に自覚できるよう工夫している。
- (△) サ 生徒の学習到達度を見取り、適切なフィードバックを行っている。
- (×) シ 自己評価や人との対話、作品の共有、フィードバックを通して、自分の考えを整理・修正したり、新しい学びを得たりすることができる機会を設けている。
- (×) ス 技能統合型の言語活動を設定し、4技能5領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう工夫している。

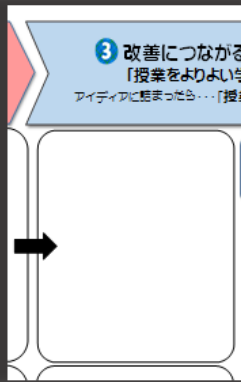
実際のコミュニケーションを意識させた言語活動になっていなかったな。同じ語彙・表現に繰り返し出会うような工夫も足りなかったから、なかなか定着しないのかな。

音読やPDなどをさせてはいるけれど、何のためにしているのか、何を意識してやればいいのかについて、生徒に伝えたり、考えさせたりすることが少なかったかな。学習到達度を自覚させる手立ても取っていなかった。



それに、辞書を使って、必要な表現を探し出せるような練習をさせていないから、表現が広がらなかったのかも。今の自分が持っている力で、言いたいことが言えたとか、うまく伝えられなかったとかを実感したり、表現や内容を振り返って修正したりすることができる場もなかったな。

3 改善につながる手立てを考えてみましょう。



なかなかアイデアが思い浮かばないな…。
「手立てシート」を参考にしてみよう。



黄枠：主体的な学びの視点からの手立て

- A** 生徒が英語に触れる機会を十分に確保し、英語で互いの考えや気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションの機会を充実させるために、授業は英語で行い、授業が実際のコミュニケーションの場面となるようにする。
- N** コミュニケーションを行う必然性があり、学習した内容と関連付けながら、複数の技能を組み合わせて行う言語活動を設定する。
例) ペアトーク、Reproduction、Q&A Making、T or F Quiz Making、Skit Making、なりきり日記、Read between the Lines、Picture Describing、Comment Writingなど
- O** 帯学習で、場面設定を変えながら既習内容を繰り返し使う機会を設け、生徒が自己の成長を実感したり、達成感を味わったりすることができるようにする。
- P** 動画記録や作品を、正確さや流暢さ、内容の質など、視点を持って振り返らせ、自分の現在の力を自覚したり、向上に向けて改善を図ったりすることができる場を設定する。
- T** 学習課題解決の手順やヒント、辞書やお助けシート、インターネットの活用方法など、自力で課題を解決するために必要となる情報やツールをあらかじめ提示しておく。
- X** 活動の途中で、教師やクラスメートからのフィードバックを基に、自分の理解度を確認したり、発話や作品の内容について見直したりすることを通して、気づき、修正、工夫ができる場を設定する。

ピンク枠：対話的な学びの視点からの手立て

- C** Teacher Talkでは、生徒にとって理解可能なレベルの表現から、少しレベルが高い表現までおりませず使用し、教師の話や聞き取り、教師とやり取りをすることから表現を学ぶことができるようにする。
- D** 教師やクラスメート、様々なネイティブスピーカーの発話や作品、本や記事などを聞いたり読んだりして、語彙・表現や文法などを習得することができる場を設定する。
- E** 読んだり聞いたりして得た情報を、整理して人に伝えたり、書いてまとめたり、人とやり取りしたりして、学習内容を深め、知識や技能を習得することができる活動を設定する。
- G** 活動の途中で、学習内容の理解についての確認や、発話・作品の内容についての見取りを通して気付いたことを、クラス全体で共有し、個々の生徒が自分の修正・再構築に生かすことができる場を設定する。(良い例から学ばせる、間違いや改善点に気付かせるなど)

Teacher Talk や帯学習を見直して、生徒がいろいろなコミュニケーションの場面で英語をインプットし、学んだことを使って表現したり、理解したりする体験ができるようにしよう。その中で、目標をもって練習に取り組んだり、自分の課題に気付いて改善したりすることができるように、何か手立てを取り入れたいな…。



緑枠：深い学びの視点からの手立て

- F** 授業をインタラクティブに展開し、自然なコミュニケーションの場面における、教師とのやり取りや生徒同士の情報交換などを通して、思考や発話を促しながら、複数の技能を組み合わせて実際に英語を使う経験を積み重ねることができるようにする。
- I** CAN-DOリストやRubricなどを活用し、コミュニケーションの場面に求められる力を、複数の面(適切さ・正確さ・技能など)から示し、具体的な振り返りを通して学習到達状況や改善点を明確に自覚することができるようにする。